

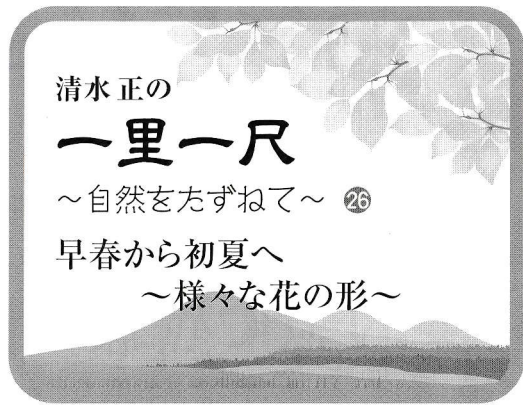
清水 正の

## 一里一尺

～自然をたずねて～ 26

早春から初夏へ

～様々な花の形～



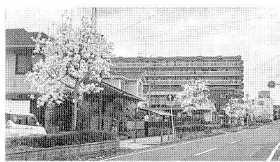
### 春を待つ

節分も過ぎ、桃の節句ともなる  
と春が待ち遠しく心がざわついて  
きます。「一里一尺 自然をたずね  
て」②でも記したように、人里で  
はそここに雑草が芽ばえ、花を  
咲かせます。まだ多くの花は眠っ

ている中で咲く、名前も覚えて貰  
えないような雑草たちが主役を張  
り合っています。一方、山里では  
早春の小さな花が目を引きま  
す。それぞれの場所ごとに咲く花が違  
い、人それぞれに春を感じる草木  
が違います。

私の家の前は太閤秀吉が作った  
宇治槇島に続く太閤堤です。昔の  
ままの細い街道が続き、しばらく  
して近鉄向島駅に近づくとき急に道  
幅が広くなります。そして両側は  
ハクモクレンの並木になります。

私が春一番を感じるのは、この  
ハクモクレンの  
蕾が少しずつ大  
きくなって、外  
套を脱ぐかの様  
に蕾を包む苞が  
開き、遂には白  
い花びらが天に



ハクモクレン並木

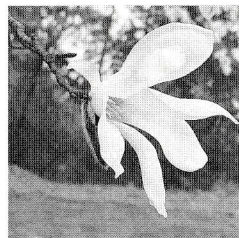
向かい開  
きだした  
ときです。  
今か今か  
と待って  
いた私の  
心が落ち着きを  
取り戻します。

ということで私  
の春はハクモク  
レンと観月橋に  
啼くウグイスの  
声です。

なかなか見事  
なモクレン並木です。その頃、山  
里の春を思い描きます。山里では  
スプリングエフェメラルと呼ばれ  
る春植物が林床を彩り、山の斜面  
をタムシバの白やヤマザクラの薄  
紅がほんのりと色を染めていま  
す。

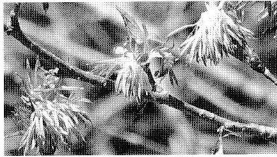


山に咲くタムシバ



タムシバ

# 目立たずとも可愛らしい 樹木の花々フサザクラ。 カツラ・ツノハシバミ々



フサザクラ(眞田幹雄氏撮影)

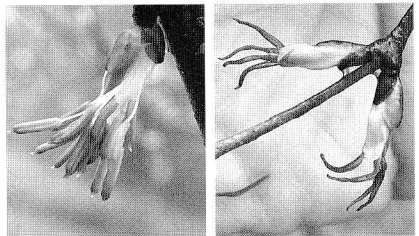
早春に咲く花で目立たず変わったものに樹木のフサザクラがあります。フサザクラは一属一科二種、日本にはそのうち一種が分布しています。もう一種は中国・インド・ブータンに産します。私たちが認識している花は花弁があり、その中に雄しべと雌しべがあるものです。しかしこの花には花弁がありません。萼もなくむき出しのしべ

があるだけです。赤褐色の雄しべが房状に枝につき先の葯が割れ花粉を飛ばします。雄しべが枯れた後、底部にあつた雌しべが伸びてきてゴルフのクラブ状の果実を付けます。新緑の頃になると葉が開き、縁に不揃いの鋸歯があり、先は鋭く尾状に伸びます。特徴がある葉ですからすぐ目につきます。私がこの花を最初に見かけたのは、大原を抜けて朽木に至る途中越の国道を走っていたときで、葛川あたりから道沿いにびっしりと赤いものをつけた木がありました。それこそ気になって下車して枝を探ったのが初めてでした。途中越は花折断層の上を通っており、頻繁に土砂崩れが起こります。この木はそうした攪乱地を好み、よく見かけます。それからか別名にタニグワとも呼ばれます。

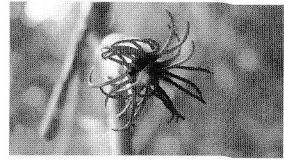
フサザクラとよく似た花を持つものにカツラがあります。カツラは葉の形がきれいで美しい黄葉と落葉の香りがよく好まれ、公園などでも沢山植栽されています。フサザクラと違い、小さな花を近くで見るとは難しいです。枝が下に張り、目の高さで見られるものがある公園などをあらかじめ探しておくといでしょう。カツラは雌雄異株の木ですから、雌花と雄花は違う木で見られます。雌花は房状でフサザクラにそっくりです。雌花はたとえて言えばイソギンチャクの赤い触手といった感じです。それがとても小さく美しいのです。

フサザクラとよく似た花を持つものにカツラがあります。カツラは葉の形がきれいで美しい黄葉と

落葉の香りがよく好まれ、公園などでも沢山植栽されています。フサザクラと違い、小さな花を近くで見るとは難しいです。枝が下に張り、目の高さで見られるものがある公園などをあらかじめ探しておくといでしょう。カツラは雌雄異株の木ですから、雌花と雄花は違う木で見られます。雌花は房状でフサザクラにそっくりです。雌花はたとえて言えばイソギンチャクの赤い触手といった感じです。それがとても小さく美しいのです。



カツラ 雄花(左) 雌花(右)



ツノハシバミ

このカツラとよく似たものにツノハシバミの雌花があります。雌花は虫がぶら下がったようで、す。雌花が開く

もこれで花粉媒介できるのかなと思いますが、三種ともに花粉を運ぶのは風であつて、虫を必要としません。だから特に目立った花卉を持つたり、香りを放つたり、蜜を作つたりしていません。極めて省エネの生活といえます。

植物には前記三種以外にも花卉を持たないものは沢山あります。

出切ると本当にカツラのように、もうひとつツノハシバミの見どころがあります。それは実の形が独特で丸い実から角が伸びています。一本、二本、時には三本と出てい

しかし生殖器官としての雌しべと雄しべはほとんどの植物が備えています。また花卉が退化して小さくなり、萼がその役割を担つたりしているものなど、進化の過程で

ます。もひとつおまけにこの実は和製ヘーゼルナッツと呼ばれ食べることができのです。三種ともよく似た花を持っていますが、科

色々な形を作り上げてきました。なんと柔軟な生き方をしているのでしよう。

はフサザクラ科、カツラ科、カバノキ科とそれぞれ別のグループに属しています。しかしいずれの花

いずれ菖蒲あやめが杜若かきつばたノハナシヨウブ・アヤメ

が咲き出します。カキツバタの花は六枚の花披片によって成り立っています。あえて花披片と呼んでいるのは花卉と萼がとも似てしまい区分しにくいために花披片と呼び外側を外花披片、内側を内花披片と呼んでいます。従って本来三枚は萼由来のものといえます。多くの植物の持つ萼がない状態の花といえます。前出の三種の花は花卉がないといいましたが、カキツバタは萼のない花の一つといつてもよいでしょう。

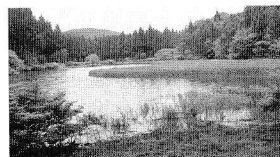
京都では有名なカキツバタの自生地があります。上賀茂神社の摂社太田神社です。ここには太田の沢と呼ばれる湿地がありカキツバタの群落があります。古くに天然記念物に指定されました。そこから近いと深泥池という湿地があり、白いカキツバタが生育し



深泥池の白いカキツバタ(真田幹雄氏撮影)



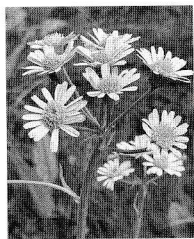
カキツバタ



平池の静寂に包まれたカキツバタ群落

滋賀県には箱館山の裏の方に平池があり、その中にカキツバタの大群落があります。最

近有名になり沢山の人が訪れますが、時間をずらしていけば深閑とした森に囲まれた池に紫のカキツバタ、オレンジのレンゲツツジ、黄色のサワオグルマ、白いモリアオガエルの卵塊、ときおり聞こえるカッコウの鳴き声など素晴らしい空間に身をおけます



サワオグルマ

ています。すぐ傍を車道が通っていて、車を走らせながら白のカキツバタを楽しめます。町の中にこうした二つの自生地が未だに残っているのは素晴らしいことといえます。カキツバタとアヤメ、ノハナシヨウブ。「いずれ菖蒲か杜若」とも言われるようにとても似ています。もちろん三種とも萼はありません。ハナシヨウブはこれをもと



アヤメ

### 彩り豊かな平池の初夏

にした花菖蒲という園芸品種があちこちで植えられ混乱をきたします。見分け方はカキツバタの外花披片には白い筋が入り、ノハナシヨウブは黄色い筋が入ります。アヤメは名の通り文目があります。そしてカキツバタの生育場所は水の中、アヤメは陸地、その中間がノハナシヨウブです。



ノハナシヨウブ

私は京都市近郊ではこの群落を見たことはありませんが滋賀県の高島あたりでは普通に見かけます。府県によっては既にレッドデータに掲載されているところもあるようです。普

通種であつても大事にしていきたいものです。

一方レンゲツツジは二〇二二年京都府レッドデータ準絶滅とされています。冷涼地に生育するので信越などの高原に行けばよく見かけます。オレンジ色の五〜六cmの花が枝先に固まって付き、見栄えがします。毒性があるので牛馬が食せず、放牧地の草原などに凜として咲く姿は美しいです。ツツジ科の実はブルーベリー、ナツハゼ、シヤシャンボなどの食べられるものが多いのですが、ア



レンゲツツジ

セビと本種のような毒性のものもあり、口にするのは気を付けな

ればなりません。レンゲツツジでは過去にアイスクリームの飾りに添えたものを食べて中毒を起こしています。もちろん蜜を吸うこともだめです。

平池の周囲には沢山のモリアオガエルの卵塊が木々の枝にぶら下がると見かけると思いますが、少しでも下に水があるとすれば、いつもがなくなつてもおかしくない路上のたまり水の上で卵塊がぶら下がっていることがあります。このカエルはアオガエルの仲間であまがエルとも近縁のカエルです。一つの卵塊には数百個の卵が入っていますが生き残るのはほんの僅かといわれています。天敵は木の下の落ちてくるオタマジャクシを待

ち受けるアカハライモリ。

時にはヘビが樹上の卵塊を襲う。猿が卵塊をつかみ取りむさぼり食う。そればかりではありません。卵塊が干からびてしまい死んでしまう。水溜まりが干上がり落ちたオタマジャクシは命を失う。至るところに危険があり、それを乗り越えたものが奇跡的に生き残るのです。自然界に生きるものの宿命で「食うか食われるか」僅かの自然環境や天変地異が命を奪う。しかしそれが他の生命をつないでいく。ただ可愛そうと見るのではなく、こうした小さな命が自然の礎にあることを心に受け止めたいたすね。



モリアオガエルの卵塊(平池にて)